

平成28年度全国学力・学習状況調査の結果

京都市立西院中学校

平成28年4月に、文部科学省が、全国の小学校6年生、中学校3年生を対象に実施した「全国学力・学習状況調査」について、本校3年生の結果がまとまりました。本調査では、国語と数学の2教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されており、生活習慣と学力との関係など、本校の生徒たちの状況をお伝えします。

総合結果(国語・数学)

本校では、国語A・B、数学A・Bともに全国平均を上回りました。特に国語は、A・Bともに7割を超える平均正答率でした。また、無回答率も前年度に引き続き低く、概ね、最後まであきらめず問題に精一杯取り組む姿勢が育っています。

国語科より

	国語A	国語B
全 国	75.6	66.5
京都府	75.8	67.2

国語の学力を順調に身につけていることがわかります。A(知識)・B(活用)、どちらの結果も全国や京都府の平均よりも高く、7割を超える正答率でした。ただし、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項においては平均正答率が全国や京都府よりも下回っている。漢和辞典の「意味」の中から、「賛美」の「美」の意味として適切なものを選択する問題の正答率が低く、普段使い慣れない言葉への抵抗などが感じられる。語彙力を伸ばすためにも、新聞を読んだり、いろんな文章に読み慣れることが大切です。

新聞やいろんなジャンルの本を読みましょう。

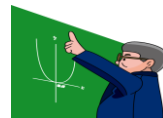


数学科より

	数学A	数学B
全 国	62.2	44.1
京都府	63.3	45.1

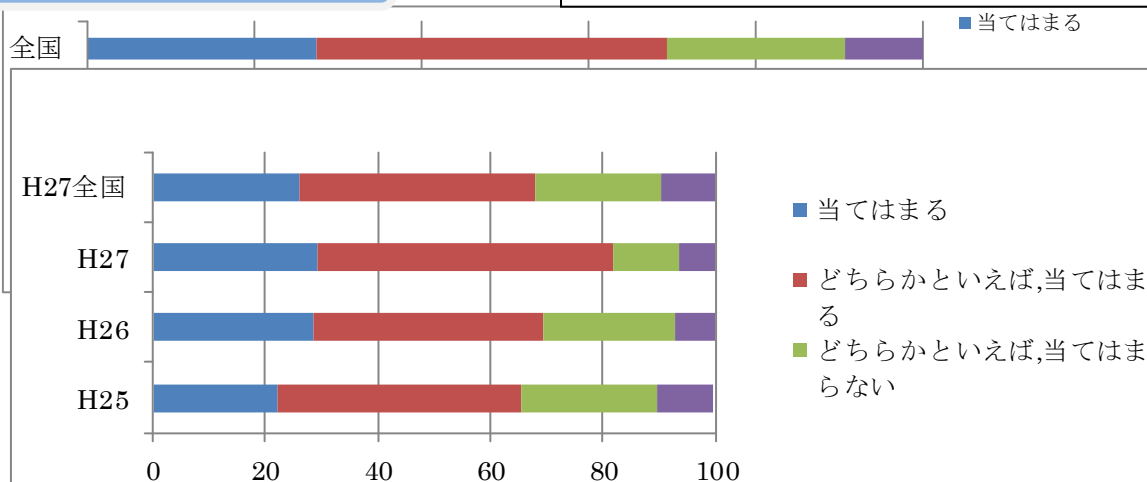
A・B問題ともに数と式の領域は数ポイント上である。これは、日頃から技能(計算9についてフィードバックの取り組みをしていることで、技能が定着していると考えられる。垂線の作図の方法を問われる問題や、与えられた式を用いて問題を解決する方法を数学的に説明する問題、筋道を立てて考え、証明する問題など正答率が低い問題もあるが、記述式の問題での平均正答率が京都府・全国よりも高い。繰り返し内容の理解を進めるとともに、違う見方や意味を問われる問題にも対応できるようにしよう。

多くの問題を解こう。



生徒質問紙調査から

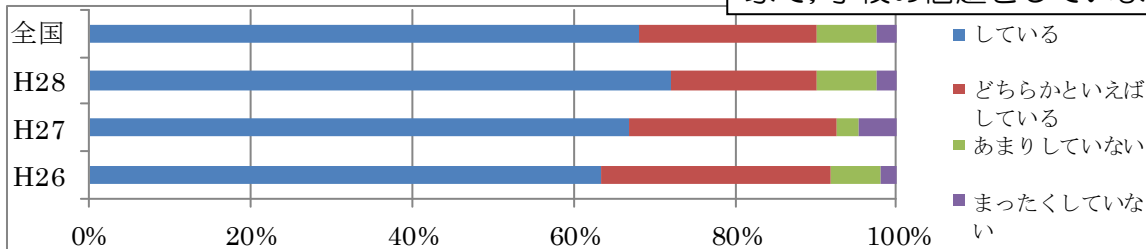
自分には、よいところがあると思いますか



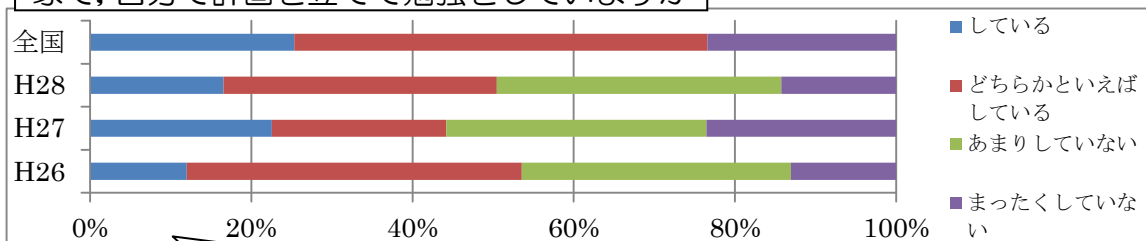
自分には良いところがあると肯定的に考えている生徒が7割を超えています。本校では、「自主企画・自主運営」に基づき、さまざまな活動を行っています。そのことが、まさに「自己肯定感」「自己有用感」に繋がりがいきいきと活動することにつながっているのでしょう。また、最後までものごとをやり遂げようとする粘り強さや、将来の夢や目標を持った行動などにも表れています。地域や社会の一員としての自覚を高めるためにも、今、自分ができることをしっかり考えて行動しましょう。

生徒質問紙調査から ②

家で、学校の宿題をしていますか



家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか



平日(月～金曜日)、1日当たりの携帯電話やスマートフォンでの通話やメール、インターネットをする時間が3時間を超える生徒が22.9%で、全国よりも6%以上多い。家で宿題をする率は90%を超えるが、予習をしない38.5%、復習をしないが18.9%と、いずれも全国の割合よりも高い。また、自分で計画を立てて勉強することを全くしないという生徒の割合は14.8%で全国並ではあるが、家庭での学習習慣の見直しが必要だと考えられます。宿題については、各教科の先生が範囲や量を実態に応じて調整をしていますが、主体的に学習することが学力の向上に大きく影響することは言うまでもありません。毎日の積み重ねの大切さはもとより、時間を有効活用できる力を備えていきましょう。

全体を通した本校の成果と課題

本校は、「生徒の主体性と自立を目指す9年間の義務教育の創造」を目標に、計画的・系統的な一貫教育を地域と一体となって進めています。特に、言語活動を取り入れた教育の工夫に取り組んできました。その成果が、ここ数年の活用力を問うB問題の成果に表れており、その力が全ての教育活動に生かされ、本当の学力の向上に繋がっていると思われます。しかしながら、まだまだ知識を中心とした問題では伸び代を残しているように思われ、より論理的な思考や表現力に影響を与えていると考えられます。「学ぼうとする意欲」「生涯にわたって学び続ける力」をより高めるためにも、個々が課題設定をし、課題解決に向けての探究活動をする学習を各教科で進めています。

保護者の皆様へ

全国学力調査は、子どもたちの生活状況を含めた学習状況を知り、子どもたちの可能性を更に伸ばしたり、課題を解決したりしていくためのものです。結果が学力の全てを表しているのではなく、順位を競うものでもありません。学力は、望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤となります。ご家庭での子どもに対する積極的な関わりや指導・支援とともに、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりに、引き続きよろしくお願い致します。